



官  
刺  
孝  
義  
錄

卷  
二  
十

陸  
奧  
九

9  
1596  
20



9  
1596  
20



孝義録卷之二十

陸奥國九

奇特者与云清

与云清は若松の城下天寧寺町の老あり九歳乃時より  
塗師又右意の方よりありて其業を學ひ七歳れあひ  
とにくとをらうたらる職人よりありしも管主人乃  
あつととあるかまはく十年よりら助力してを君  
ふむくひと又右意の年若く其業もありむとるれ  
いよらの善業ありして名とも道則とありとる  
し其子一人ありと若く時より二福ありて家乃

孝義録卷之二十

業どもありてと親と暮らふとあるもわづらひと  
 与え清りの心をいひて主人の家乃ららの忠とく  
 く暮らひぬ道則ありも自由あらざりしと暮ら  
 う方よむへぞつて暮らふゆゑ二十年まことの親乃らら  
 敬ひりて死よ出づ事ありて日暮ぬまのうら  
 よおととも暮らひ得て寺に説法おとさふゆけ  
 とぞりてとれ物乃頼まてふつけとの家君の側に  
 分二方の家とつりてと暮せ物夕の膳は与え清  
 婦その子清を養ふいふくもつりてとりの心食く道則  
 乃著せりてとらるるたよいあへく物らと暮らるる妻

もありて其家の法よありてと暮ら与え清がとらるる  
 ありける道則いゝ家の名日よいぬ乃ららの忠と精  
 養してと暮らふとたら又其家の先祖の忠おとら  
 布衣物とららめらして其師乃芳よつりて法と  
 といとるるをりてと物を店よとらて代職とけ  
 まいその初穂よと酒とりの師よとら先年のねと  
 ちとてと味つとらととととと孫よもとらとと道則  
 よのとありてとらと暮ら清りの二男に慈助とらと願ま  
 願よめつとら者あるかこれも又給金とゆ初穂  
 よとらと必清を求めその師とらひよ親見ありとも

とく免難いといふ事も若かりし頃の元文を  
懐きしうして願ふより業とさうせぬ

孝行者佐六云清

佐六云清佐五云清見申は若松乃城下小江町よとあ

り人となり実業なるものよとまづくの人と交る  
よも解結ひさる事さく家賣しこれと人の物  
を貪る事さく道とふし控とさうなりそれよ  
藤末ある事とさうは一町の者よいひてもい  
て礼義と礼る事さく見は堅地塗のこくさ

あり申ふふいふありし世とさうあるよ見は  
ふのこくさくい見と親したのそと考くつる母  
孝とさうあるよいふいふ若け業ふとさ  
免業とせんいふいふと母よとめ物えん事  
まことある時見はまよあつり申は見よあつりて  
ついで二人とふいふあつりて酒とさういふ母と  
免業長とは世の中れ物性いふの業子のそと  
してさういふいふと佐六云清のゆるる乃價の母  
よとせして後身よとさういふこれをうるこい  
み申はいふいふそのお入をさういふ事あり

身も見どころやあひして甚その衣服も見よふに  
物よむせいの物にむしと物よむらひは後ゆふ  
大清人足あこよあしるささもつり先よよとく  
出つて見せらふの心正まよして孝悌とそなれは領主の  
賞とつりく先文元年よ業とあこよ

忠義者と言

若松乃波下一の町久左衛門下男と言はむと河内郡  
善本村の百姓ありその生まつて実義ある者よ  
祖父の久左衛門討つり二十年つ久しか為よ家乃  
らら乃若者のふまたかしくはあふれ下給のあこよ

もふと昔の心持もあつてつりつりあつてあつて  
勤つりつり今の久左衛門の祖母のやめら討も七年の  
かよとつりつりつりつりの事よつりつりつりつり  
も暇あつて花もつりつりつりつりつりつりつり  
み出る事つりつりつりつりつりつりつりつりつり  
つりつりつりつりつりつりつりつりつりつりつり  
祖父あつて父の病せつりつりつりつりつりつり  
妹乃あつて稚さつりつりつりつりつりつりつり  
おとつりつりつりつりつりつりつりつりつりつり  
とそ久左衛門の久左衛門のあつりつりつりつりつり

よくあたるひ物又の家財あつても大考とてし  
 大とていふやせとていふこゝに夜服相交はら  
 焼失ひぬるもあつてもいひてその料を  
 たへしつゝいふもいふ事あつてもいふ家  
 名をいふもいふ料をいふもいふ事  
 道よおちる物をいふもいふ事  
 いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事  
 甲の欄町といふもいふ事いふ事  
 多しものありいふ事いふ事いふ事  
 と乳よいふ事いふ事いふ事いふ事

ともお免つりその見とる事親のこゝろあり  
 とお物とていふ主人乃家の業へいふ事  
 とていふの志もいふ事いふ事いふ事  
 領より業とていふ事いふ事

孝行者志

郎麻郡本地小倉村の吉右衛門は本地細工と職とて見  
 申曰くありいふ事いふ事いふ事  
 こと事いふ事いふ事いふ事  
 こと事いふ事いふ事いふ事  
 こと事いふ事いふ事いふ事

て蚊を拂ひ冬ハ巨燈の火くえぬやうよむとつひ  
 ぬ三月の終りまでいらるまでとつひまうとつひよう  
 の終りせよあらぬおちの達次とつひははよは  
 て綱もくよとつひしつひ孝ふのらつひまうよや雷  
 の中よとつひとつひ十月よとつひとつひとつひこの  
 めいあつひ身よ金き分とつひのゆくとつひとつひその  
 重よあつひぬ十二月乃きとつひの死却もあつひぬとあ  
 内とつひとつひ孝盡せりあつひるま睦月の程きとつひよ  
 くははとつひる地の清き波く来つひとつひよ見事妻  
 ふともそのあつひ行とつひあつひの源とつひとつひあ

あつひとつひの泉とつひ波とつひ父味とつひとつひら  
 波の水よあつひとつひあつひあつひあつひとつひとつひとつひ  
 うらつひあつひ乃はよとつひ氷をうらとつひとつひとつひ  
 お父うらとつひあつひはつひ是とつひあつひの清きとつひと  
 せつひとつひあつひあつひあつひあつひとつひとつひとつひ  
 しくあつひとつひ吉を盡とつひとつひとつひとつひとつひとつひ  
 てあつひとつひ眩とつひとつひとつひとつひとつひとつひとつひ  
 元文とつひ年領とつひとつひとつひとつひとつひとつひとつひ

貞直者ら

會津郡神指村の百姓武右衛門の妻のいとつひ男傳とつひ

夫婦の祖父母も孝なく親族の事も  
 一のりたこと年々たれより武志の癩病を  
 いらくよ療治とせしむるも治せずこれ人々の  
 へる病を世の世の中へいもさうに  
 のもらよありて孝ひとらくるもの  
 七年前よ妻子と人別家せし農事も  
 へる病を世の世の中へいもさうに  
 のもらよありて孝ひとらくるもの  
 七年前よ妻子と人別家せし農事も  
 へる病を世の世の中へいもさうに  
 のもらよありて孝ひとらくるもの  
 七年前よ妻子と人別家せし農事も

日薬と求め或は温泉よらもるひ日よ  
 く煙草のこつとせしむるも治せず  
 とととあけく世の世の中へいもさうに  
 髪けつる事いもとらくるもの  
 たらせ其世の夜もえよくつらぬ  
 醫師のものとれ行かういもさうに  
 といふの古所よらもつとらくるもの  
 をついでとせしむるも治せずこれ  
 といふとらて孝ひとらくるもの  
 といふとらて孝ひとらくるもの



の虚室を菩薩斗帳を知らずく遍く入る  
 事ありし武志徳の福よりて妻の  
 もかかるといふ妻にふりて進もあらは道あり  
 といふとわける病者と好しといふもふとあ  
 とく夫婦ともおそれて出山遊ゆるとい  
 とらう志つようらつ進道ゆりぬ武志徳の志  
 お威して妻にいらるる方の病よのつ子あつ物  
 をいよこ奉若ふといふ女のともたらを柳津村  
 ちかくといふいりうの奉らるの者病いといふ  
 孫は今より振らせん福よりいふといふもふ

ら遊めといふといふ妻も涙らといふといふあり  
 といふ奉よといふ事なりといふの事ありともけ家  
 と出んといふといひといけといふ毎といふ  
 果よといふといふれねといふ糧といふといふ  
 といふといふといふの事といふといふといふ  
 食といふといふといふ志といふといふ其の貌も  
 らりといふといふ種福の事といふといふといふ  
 といふといふ元文三年領主より来らせといふ  
 といふといふといふ

孝行者いん

若菜の城下中三日町ふけあるめおぬの籠高し  
 て塗物類をうりけるか十年このこも買し  
 かりと旅よ出る事もなかりぬしと妻のかんた  
 降とる事といとるこくし姑夫をきつり姑  
 のみおぬの十六歳乃時よきまら継母らんと実  
 の母れこくむつましくして妻もいふく  
 若菜とせせり今年七十九歳に及い老ひく  
 ともくの事好めらにんこの夜をうりて必そ  
 の物をもらめ又いつらうらひして朝夕の食乃う  
 ちとぶしつとことお後十後つものけ並姑の

重とおかんととらうのけら燈火の油さへたらし  
 姑のいぬし男のけし並和このあふこら  
 ふけこらともつこよ好める茶こらおけし  
 ほめつ夫婦もどもにのこし数めおをれ外  
 おの先とつら外と暖めしつとこおのそい  
 夜をうし若菜ぬらと事おぬの夜とぬとこ  
 し若せしめ其男の濡し夜とぬらし実のこ  
 とら子と若ぬここくせしこら姑もわし母と  
 慕ぬよいしけし茶摘よ出るものも必若志  
 らせぬまの又それ思ふ若菜ぬまぬぬも

多病ありし二人をあつふ事いひまじり  
とく元文六年願主より米をよこへて賞し

孝行者熱丸素

會津郡西川村の肝養夜丸素といふ孝人の  
の者あり父熱丸素といふと世を懐くか  
とらふ此事肯とつけとらふい物夕小起者  
をとい他のいふあしは初ても疎らしとを  
あまの必持帰りて父よとてい今奉交のいり  
父病つとてをよとていせにとい病のわこの  
あつひふのつ子れ人及ふくもとていり此母

とらふとせとて今あるは同く熱丸素村より來  
まらふといふの村も先の妻乃子種十郎といふ  
行養のくそをける熱丸素より奉このことあ  
まの身にいひとて相むつて方の事輕といふ  
しぬ又熱丸素の祖母奉久しく申風を屋  
こして隣の家よととけると下仕へ乃女ひりや  
流をたし今此母日こらよ行きて年祿慰む物指  
せんといふ中男に背負はせと熱丸素といふは  
あまの風呂をぬむとこれ里にありせ又小宗  
とらふといふ産院をいひとてい世祖母をむり

くくやうくめつゝ家のうららこころしをもくたう  
 食をこつら試きとく先物りい子の和布よ  
 おりせおあましく送り今の母も孝心を後と  
 かるら孫の實の母このと人の心ひきまかりしに里の人  
 もまたのもけきとく孤獨の人の病あまの薬の事  
 食物何くまてかを致してあつひをまひあへり  
 の者もとらうひして親族よとてく志つひいれ  
 可くあん元文六年領主より米をのくと徳義に  
 孝行者とく助

若松の城下融通寺町よ田郎云清とく備前

海河町まゝ人の多きとくありく事をと業とく  
 ろ者ありふ年さだより立やととく後もや  
 らとまやとてらてとく力よとくのかけ走ら  
 事も叶いねい事のつらとる若くく飢も  
 及ぬとりのさるや其子とく助とく十歳ある  
 いら程さくいあまて父の業つとあまおとといふ  
 におわつるまらつら其業を譲りてに行程中  
 里など所いさる事いそく後とも甲斐く  
 しくめいひひとていよとせり去年の  
 より父いよく養へ眼とくを漏けまの飽

却も物うくせし〜と云ふ〜の學療をか〜  
らと〜く驗う〜と〜助物々の食〜と〜ら〜の  
敷の亦よ敷い〜と〜く重の物〜と〜酒を  
飲りぬ〜と〜と〜の遠〜と〜の白酒が〜と〜ぬ  
出或ハ小豆の粥固乃〜と〜たら〜と〜ら〜と  
と乃魚食せぬ他よ出る日〜と〜り〜と〜食  
者乃具新味増を極〜其雜費乃出るを〜と〜知ら  
〜と〜め〜と〜ぬる事ハ除ぬ〜と〜の清〜と〜り〜使  
の價錢に費ふ旨文程と亦よ物〜と〜と〜筵包を  
と亦ゆ〜と〜あら〜と〜ぬも〜と〜ぬ〜と〜ら〜物ら

ん〜と〜と〜〜と〜ぬ〜と〜ぬ〜と〜ぬ〜と〜ぬ  
りぬを父乃あら〜と〜ぬ〜と〜ぬ〜と〜ぬ〜と〜ぬ  
〜と〜と〜と〜と〜ぬ〜と〜ぬ〜と〜ぬ〜と〜ぬ  
ま〜と〜道〜と〜と〜と〜と〜ぬ〜と〜ぬ〜と〜ぬ  
自〜と〜ら〜復物もあら〜と〜先父よかの錢を〜と〜せ〜  
ぬ〜と〜地〜と〜〜と〜ぬ〜と〜ぬ〜と〜ぬ〜と〜ぬ  
ありけの物な〜と〜父の廻〜と〜ぬ〜と〜ぬ〜と〜ぬ  
物〜と〜と〜ぬ〜と〜父の病〜と〜ぬ〜と〜ぬ〜と〜ぬ  
念志あるん〜と〜と〜と〜と〜ぬ〜と〜ぬ〜と〜ぬ  
〜と〜と〜と〜と〜ぬ〜と〜ぬ〜と〜ぬ〜と〜ぬ

とと野のえい〜その其事なりとあり〜と〜と  
 あり〜中へ〜次第と〜と〜も継ぐ〜は  
 といひ乃助けももろ〜と〜と〜と  
 こと〜と〜と〜と〜と〜と  
 と移りひるれい元文五年願まけ事と〜と  
 と事とあり〜と

忠義者ゆと

物さ〜越後國蒲原郡細越村の氏治忠義の娘  
 より〜會津の家士日笠卓玄清乃父某の代よ  
 一孝つとめせ〜と女あり後その事もゆと

其家よりゆり〜と〜と〜とあり〜と〜と  
 卓玄清の代とあり〜と〜と〜とあり〜と  
 志〜と〜と〜と〜と〜と卓玄清父母を  
 る事あり〜と〜と〜と〜と〜とあり〜と  
 里〜と〜と〜と〜と〜と其あり〜と  
 教〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と  
 卓玄清娘二人をゆりけ父母あり〜と  
 あり〜と姉娘と懐と外〜と〜と〜と日  
 送り〜と卓玄清會後〜と〜と〜と家  
 と引〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と

あはれとてくはれとてまよひのかりぬ雷とて入りしこゝ  
 るよとらげとてるを越え城下天寧寺町よ  
 ととこわりとてるくこゆとてく卓玄清の人の影を  
 らましくし妻とてあきとて世にまよひとて目こ  
 とよ旅離をとり神仏を祈る軍切たりの  
 卓玄清の妻よ命つるくつりの糸あてこ  
 らるましくもるを物夕の陰影の料も走し  
 とことあき人の夜ぬいつくろいもつれ任後と  
 とりてこれとたどらけ中男も年季明るく  
 て越し後の夜とてくのらとてあきとてつれ影よ

より雷つりつめあきとてあき春霞の雷と拂ひ  
 雲のそこねとてもつくろいぬり畑お作ら軍も  
 めいしくくくこやとて持とてつれとて走しとて  
 枝あしと脚も骨にたつる若く故主の家三人の  
 婦女の衣乃洗ひとてとてこのとてえ若くくくぬ  
 やらにを送りけつとてこれ秋の信よとて父のもとり  
 津川町乃醫者波田玄智といふ福有乃若くこ  
 ころ跡を穿及ひし妻よあきとてあきとてい  
 りとてりともゆりねといひをこつとてあきこの  
 んくこれとてあきとてあきとてあきとてあきとて

うけのいと卓三坊因獄の中よりこめられしよ  
 り妻ともいふとありせ焼飯かと増まるか日教の  
 ともりといふ人もいのもんくつりもつてく風乃  
 船更乃夕もいといとあつちいもせは徒然あく  
 あつちつこれと携へゆきりあつちの者乃  
 いち因獄乃中とくもさあつち此贈ありて  
 食の不量もあつちいよるあつちも日こと  
 といふあつちといふあつち日もあつちいよ安うら  
 て程目しといふあつちもあつち卓三坊の妻は  
 戸の産ものいこ乃あつちいよあつちもあつち

い入ふといめん車といつちのてとく熱めつ力を  
 そへその卓三坊の罪は家のえつとこれあつち  
 よあつちの金砂といつち用にもちあつち毎  
 用といふあつちあつちいよ車といふあつちけ  
 せは其あつちの金金といふあつちあつちあつち  
 うこのいよと志といつちせらあつちその車といふ  
 いよつちにいよれあつち且つ子のいよもあつち  
 穿てとい町の検察名といふあつち町あつちあつち  
 うり領といよといふあつちのあつちあつち卓三坊の  
 妻のいよといふあつちいよあつちあつちあつち







して植付へてやうするのしと種田郎の事  
 に感し村の者志を勵し宮作たるありけり  
 よりしうめく早苗もうへて是ぬへくあり  
 志のさるらと種田郎の者乃新いもより志  
 けり延享元年獲美とて願主より業  
 そこよりとせせける

孝行者甚助

甚助は若松の城下の町の者なり人ととなり  
 篤実よりして魚高の事と業とせし一の家  
 賣ししとてやうくにその日を送せり父

はずみ奉前にうせ母の血乃及とて家の月乃  
 事ゆめよあつひうて父の身市右衛門といふ  
 者も妻子よとて獨身乃よりへるたやうよ  
 九年このうと甚助の家よりつりすうと甚助  
 つ人の働ともくつりむを妻しその母とい  
 る福乃事する日和よりし食事より  
 もと建又のりりの者ありとも人の憂をた  
 して福にのりりこよふ年六十歳あもるり  
 ちありとらありし事ありとていふし  
 うらとらとら療養とらとらと食事もよ

こと知らざるを服用せんとすれ奉り母乃好まじ  
 中をせつ子に淋しむといふに人志ありしを老母  
 じくく徒然を慰中のせねりし花あしとま  
 瓶より蓮葉をくこ物やうれ物りと先出さく  
 活させけ美のちく先も母乃甘さしりれを  
 好まじありの給をなすまひまよも好まじと饅頭  
 をあしよまじとも目ももこを妙糖とさくを  
 束め出さくせしに又欲せんとせんうさくして  
 串糖と先出さくよ母のあく脱しむの甚助も  
 母よふらふいしとまんそれ外を暑の付まの

たくひに便乃用事ある時もさあしくとんをさく  
 ぬ叔父市右衛門年六十九にありしよ去奉り  
 秋より中風を憂へくまもんのあつあつは  
 赤痢しむのさありしと是も母のこくは  
 とけつゝ甚助のまをささるる事おつゝ叔父も  
 してその志を感してそれ甚いと謝せしと  
 そとくく二人乃病者れをやらんせんく先  
 つまにやうくくくくくくくくくくくくくくく  
 うくひ奥しとく是よくく延喜元年癸卯  
 として領主より業をあらふ

忠義者惣一郎

惣一郎ハ那麻那貝沼村の百姓なるカ若松の城  
 下ニ惣伏町甚一郎の家ニ殺十年乃召仕と  
 せしにむしあつて其実義のしつてうつて人  
 主人の見孫次云流といへる者新入町の離  
 居ニ用途の金銭をもりてしつて家の  
 ころころ異なりは見守との小塗物として  
 高堂とて他所より出く世にそのまゝに奉  
 く塗物乃其と名作りしものぞ雇ひし  
 小惣一郎はあつて其事とてうつて奉れら

よにおひしつて其後を作りおに人のまを  
 とし事するく初めく起つて其元乃とゆるり  
 中へくつてつて其もる其の体とてつて  
 よそ其隙をもく業をつて其新をうた或ハお  
 も後作りの事しつて其末其の故とて人の  
 小由つて其質をゆるり主人の義のしつて  
 主人もつてしつて其体むしつて其よゆるり  
 る其のしつて物とてしつて其つて其体先  
 其の身とて其をゆるりし事ハ金とてつて  
 其の衣とてたつて其の事とて其の故とて



用のつらばりよとその暇をうらひよせしむりゆい  
手抄ひ又ハ菓子ふとありといへばその種よそ  
わいあこへ又ハ去産ふとありよとて指しゆい  
人の目くつてさう料をい用るされハ出らぬよそ  
乃ふれと先よ用うへと料をとありとていんと  
いふよもらりこましくさふへと種よまらり  
ふこのものあらぬよ強きたまのりうへとてい  
とこの料用よもあそん乃志ふの事とてゆる  
とらうふらとやとていへとて延享二年領主よ  
ふとてとてとてとてとてその志意を採と

孝行者と先

と先ハ那麻那下利根川村の百姓と志意の娘たり  
その身はとてぬとてとてとてハおと嫁りるへとて  
とともたつてつとよ母とそとてとていける父と志  
ハ六幸と記よとせよとて病のうらりもとて志意  
く枕とよとていもとて志意ととて先ぬ母ハ  
年七十と歳あると十二幸と記より中風とてと  
行と勤りの事とありとてとておととていあり  
けとていといけるとてとてとて食事も著と  
思とてとてとてとてとてとてとてとてとて

ともよんのすのむらぬをきぬ森部の子をとり  
 へく二便乃月をたさうめにも是くく孫ハ女の子  
 くとあく孫のくゆら湯とゆく手長たを洗  
 つせ日毎子外くる下の交物をかへ或はさゆく乃事  
 けよもたうふ事たりくそ乃月の力にあくはこれ  
 ハ隣家のふをたのとしてそれよりあうせぬ親兄弟  
 の年忌月忌乃日ハか食物をうとくく心平  
 里此布絶をいさやくこの月あく木綿の糸い  
 さくく賃をとり朝夕をくらく母と喜ひ衣  
 服もとくくゆらと人とたりするをよくく

村の老とも睦くかりたさくへき親族もたうく  
 ころふ月あく世渡る業をたうけきハ領主  
 の恩あく貧人喜ふへき杖持業をあつふる事  
 あきハこのころく頼い出んたをいふをささて  
 人くこれいかりある事いふる事あつらと乃  
 恩をもく母と喜ひん事不意たりとさくく  
 頼くハこの子業をりく喜ひ終んこそめや  
 とらるへけきといひけきハ延享二年領主業成  
 とらせくく褒美せくく

忠義者かや



かや、河沼郡牛沢村乃百姓半六左衛門の妻なり、  
 八年、夫より若松乃城下中河原町瑞町よほ  
 める醫師、毎夜玄智が家よつへくか生進つ記  
 律義なるものあり、まま人九年、さ記よりやま  
 て物いふ事あり、ゆゑくありく事、さ人うまぬ  
 小妻もあつて、次の年よりやまいよふつ、つめよ  
 うせり、其記玄智あり、さいふくやうつりけれ  
 ば、其子玄良、日親父よかりて、醫業をつとめ、世  
 ぶつとせむるに、極めく若くする母とや、さ知つて、三  
 人の女子とあるを、や一人あつて、まゐい志つらく

もたぬとなく、二人の病者乃うららにあく、病もい  
 へ、病とま、良も傷まれ、病をうけ、二人の娘も  
 又や、さく十日、さあへし、事あり、く、こ、さ、を  
 も、つ、く、さ、と、け、夜、乃、を、暖、を、さ、い、食、の、時、を、を  
 う、ゆ、い、や、う、く、小、病、を、さ、り、ぬ、志、の、る、よ、母、ま  
 こ、申、風、乃、煩、い、よ、く、お、き、物、も、や、さ、ら、ら、智  
 を、病、ん、こ、後、よ、ゆ、つ、り、と、神、よ、い、の、り、佛、よ、あ、ゆ、と  
 ち、さ、こ、時、も、垢、離、ら、り、と、を、を、誠、を、さ、く、け、ら  
 雷、た、り、り、降、る、物、あ、こ、軟、凍、さ、り、小、籠、を、掃、い  
 送、を、ゆ、ら、こ、又、新、り、り、兼、志、ら、け、加、う、つ、事、は、

てんつき思ふ日よ水そくをこく事とく事の人  
 の女子の知るにありいつく之りりてて女乃  
 業も教へくそ友郷にいあると父母のもよ  
 も便りて思く酔るるおひくつるが又い主人  
 より治させく物あまの折くに得りて年久  
 しく勤くしうらも主人の家を治る事を  
 のつ月乃との事のとくにいひうさくする費を  
 省させれ人ののりあしとてこの業よりくる事  
 たくたかぬ乃らち和らと眩くくんこととふ  
 ひらるとと年季とくく又いめりらむるの

給金の定むも得と事なるをいよそののりて  
 いハ年月乃めく之源とよその報をもたうとん  
 とあひ日比のるやあくことをうれハ何系なる  
 事あらんともりうもたまなるへことかこくあそ  
 何縁らそちと延享二年領主より業をあた  
 へくけりかひひを賣くげるとらん

貞直者せつこ

せじハ耶麻那本港小倉村の百姓惣次郎の妻あり  
 十五年さくさより支癒乃福よてとくく  
 人の前も出くく妻ハ妻にむひてく

三十一番をうけくとも世よましくふくもあ  
 らすと奉とけぬうちには女子ともまうして親里  
 にくりにいつとも再ひあひあつて先より  
 うらまへなると志しくいつひ多るよ妻あま  
 心いついつひあると奉ともあひあつるか  
 けり附添まいつ世てよふらつて乃ちあ  
 世のいふまゝもいつか今さらふらつて出  
 三十一つちうらくともよくくくをまぬとも  
 月ともへ娘よ聲らうりてふやと世とも後ら  
 ともとのともふといつへくうけひとも

仏よいのり男此業をもめ子勤めく田植菜とらり  
 子あひをうあるは人よやとつて人の耕とま  
 よあつり奉貞夜寝滞りあつて家と人せと  
 のかあくと此日を送りぬやとつて世よひと  
 三十一日此食をゆへると世よひ其日の奉と  
 好ある物ると調して色む雇ひてゆとつて  
 よくと異なるあらまひうれは替へゆりあつて酒を  
 三十一日此食をゆへると世よひ其日の奉と  
 起外登あつてとけま紫よも乃雇ひて  
 秋ハ親くともものを給とその子男にうりて勤

め或ハ枯枝の薪を拾ひ賣の中札ありきことば  
 孫小娘をもいぢり老くかく大福乃親り  
 あまの心こころ孝義をせむことその教へ  
 ける親ハ同郡酸川村の瑞々に田茂次といふ所の  
 百姓彦右衛門といへり其の娘の妻小貞を  
 つとむとてこころ心その志をうくるいそ力のさ  
 不との事ハともよとつと助まんおとらこえ  
 ころいふく孝義よふとせむこと其母おに  
 惣次郎年四十二のころありぬあつりの  
 老らく死て後の妻をもいぢりかこるくハ再い人  
 たるりふり

小も娘せよおとそこのせとてつともい連と娘よ  
 尊とらりて父乃初をそのせける延享二年に癩  
 病とらりて領主の業をあつていけやり免の事  
 たるりふり

孝行者小右衛門

小右衛門ハ河沼郡桂沢系町村の百姓ありつ子の初ハ  
 ぶらりしく老くる母をもつり年暮つくとそ  
 もかまぬと二便のことせむりしく人の手と  
 らすと貧窮乃方より物々乃膳も心を  
 こころ抱つてあてやつりよくとそめ農事

の暇小高よりつらつら母れ夢ひとてお慰に妻りの  
 後へ〜かへ小高集つうあらぬおも妻子の夢ひい志  
 らさつりさこ外よりぬきい〜と〜起居をとらひねに  
 子あき〜る葉抱ると持〜り高ひのやう世中  
 乃嗚こあ〜と〜つりさ〜せぬ糸町村ハ越後  
 よろ〜驛路も〜人の往來も志げ〜と母を  
 抱さ〜ねい村の中ハ童あ〜里に道ゆく人〜と  
 せ西葉魚の泣い母と〜りまの寺院よあ〜と  
 衆よもち〜ハ盆踊す村〜小おひあり〜と  
 てその心を慰めは同〜路のうら詠詠の橋を〜

破る〜村の人よもあ〜と〜と〜杖本を出〜と  
 ち〜後〜昼寝と〜道をつ〜り人〜の類ひな  
 うら〜むと〜と〜公納を〜人〜と  
 さ〜してその催を〜と〜領主よ〜と  
 て延享二年慶長ノ業と〜へ〜と其のら  
 名を小高集つと改め〜りあ〜く耕作よ〜と  
 道か〜あり〜か〜これをつ〜り又ハ橋を〜と  
 け後〜は同詠詠村乃端はよ若井沢と〜と  
 るハ高十六石ありれ〜りあ〜く百姓三人〜と  
 し〜の村ありハ一里余も〜と〜して道を

けくきささ山のふりこたきいましくに不化く  
 とくともくに困窮せしむと九年勢いとも不化  
 して飢渴も及ぶなりしに公納の年を延る  
 事とせむとれるなりしやうくよ色ゆきけらと  
 小左衛門より不化いしと不化なる堀越村の肝焚  
 よいへるい岩井沢より老いしとも困る新しき  
 食さへきり新の農事もるなりしなりて  
 之人の老いし食の價金一分つてなりしなりて  
 明年れまより小左衛門も其地よりなりしなり  
 くるへきとをい持ゆらしなり老いしなり

之人のものよ産業の事をとてへその才は及  
 乃末よりありて之人の農事を助け種級農  
 具の数をとりし食をもつけ二年かたに全  
 之を二分はしなりしなりしなりしなりし  
 小左衛門より力より出さしその債とせしなりし  
 沢より堀越へゆきよはくを平味とせしなりし  
 ちよよよ道のかともあゆとせしなりし  
 小町もあらん活細を新しき道と開きしなりし  
 して年よりなりしなりしなりしなりしなりし  
 と後人の初がよし使もなりしなりしなりし

驛路野井沢より繩沢の宮へ町裡も或りての  
 郡所ありて雷崩もあり秋乃長毎あるは八人馬  
 ともに祈るやうに六年前より新くする道  
 と申すに或は役吏を雇ひてこれを築く  
 め又八名切に命しと岩山を切らしむ九人  
 吏を用ふる事ふ人よあり賃錢も亦この二  
 十貫文よりあると小左衛門一人の力と云く  
 是と辯しこれより四年前の七月申すに官  
 作ことしくくよありぬ又繩沢乃ら白坂甲名  
 村の下のる新居と申すは毎くして年陰

険阻の居を平らあり公納をせし事あり村のうら  
 の争論うらうらありあつひとあり領主乃裁  
 判をとりらんと事くといやあり此若初月よ  
 つもりかハ明和元年かさばし寝美しと兼  
 そこよりとそあてけり

貞直者みよ

之よハ若松の城下奉貢町の借屋よと先年和右  
 兼つといへる者乃妻ありまことし二十九の  
 甲七つにたつる男ふもあまこと九年と記あり  
 癩の病よりく醫療をいつくともいへるも面乃

多あ〜くして世にゐるわさもたなりゆ〜いさか  
 のよきだ〜いよ〜いさあ乾煙葉を高く〜いさ  
 この〜形も〜ろろ〜くたなりも〜ともい〜  
 として心の中〜らと家の内れ者飢渴も及〜  
 此妻着病れい〜ぬよ人乃夜ぬひおあ〜ひたあ〜  
 さら車〜海やうよ〜ろろそのら〜病いそのつ〜ら  
 頼む人もあ〜ろろ〜仕入おた〜いよ〜の老〜く  
 ろりも〜来ら〜らおあ〜いさのひ〜よ〜  
 遠〜町よ〜ゆ〜い〜の〜ゆり親子〜人世よ〜  
 あり〜いさの車〜い〜い〜人の傷〜り出〜りは

孫よまの難痛を〜りり物夕の食おも〜の事  
 い〜ら〜ら〜ら〜い〜ま〜い〜ら〜  
 い〜ら〜ら〜ら〜い〜ま〜い〜ら〜  
 吾畧のよせだ二便のた〜け〜ら〜ら〜  
 費よもた〜ら〜い〜い〜ぬ〜い〜ら〜  
 煙葉も〜ら〜ら〜ら〜事〜ら〜ぬ〜い〜ら〜  
 の中せおよある見を〜ら〜ら〜い〜ら〜  
 血出〜ら〜ら〜ら〜い〜ま〜い〜ら〜  
 誘ひ初道〜ら〜ら〜も〜い〜ら〜ら〜  
 ともふ〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜



病の者乃家にもいりて出入の足も志はし  
 産乃りり云物のまうけいひらふりくたう  
 身よひやうしる夜よめとい髪ハ乳まし  
 中々にらりあけ祢とまよハ世ハ夜さ洗を  
 白たを志いして髪ゆの頂そりたること  
 るとくのやめる者ともををほくの高も  
 あまハ茶陸乃料ともるやとく訪ひ来るもの  
 茶のこ煙草すひるとしてさうり人のよむ毎  
 痛乃のれやらりともをえはそありけるある時  
 和志乃妻にいりるハ年迄乃書ハ報するといか

らゆものゆも除くへさ痛にあら祢ハ年りこの  
 さうらに子やもましといつてもありせよの  
 一といよハ妻いらるけいさくもる事のあは  
 るハまよの誠乃らるるありうた年月と  
 さ祢いとけるものもいりたりともん乃  
 とれ外事もありん今るつてあて出く  
 まハ年迄つてせりカも水の泡とからん事のお  
 さあくたさひけ家とあふらもくから出る  
 あらくとむせいつてとてハまといとあい  
 貞のよとせりるとそとく親族近里のものも

眩しく後々さ女よの免つるたのる者有りとし  
てこころ延享三年といふに願主よりまどあ  
くして賞し

忠孝者早助

早助は若松の城下高居町よとあるおをまつといふ  
者の子ありおをまつといふ融通寺町よとありし  
に家貧くして宅地をも賣つらるる高居町よ  
借屋してとととけのかおをまつ妻も早く早助のつ  
よるりし年になつてもやう又い寺のつら  
しめく出家のもるしとんといふととと國守

といふものあつたうりておの育しめ六年お  
に女おつも浪人となり大工町よ借宅せしは早助  
よむいしてゆりしとるしおをまつとせんのか  
急るりしとおをまつとるしおをまつとるし  
うこのも主りといふと世にともとるしおをまつ  
早助うこよりといふとけりおのり孤よひら  
といふものくおとるしおをまつといふとけり  
おをまつとるしおをまつといふとけりおのり  
おをまつとるしおをまつといふとけりおのり  
ともおとるしおをまつといふとけりおのり

せよかしくしきくむこけしつよまふしちあこめさる  
 小飯炊とる波をこし家の内此者を起して出ぬ  
 こ入の雇ひ違ふにぬりてもつり違ひつる板とる  
 せと兼薪塩味増かともらめきくぬ目れ設けと  
 し日傭み出ても移んころよつらあけ違ひをのり  
 ころ移び入ぬくぬ七日あこ十日もあより我先  
 よと兼ひこのこし一日もこきくくる事なりく  
 ここめくこりのも賃錢とまを事あり記を  
 こころりれ支取の雇違その事ともやく移れい  
 ぶよつりし拵枝ととり為業とりこ市にゆきて

八價いやくしこ物調へくり雇違初し先りあこも衣  
 めひきうりこ又木綿と織し賃とらへこ事何  
 まの事と悲しり妻中の娘の自業にるこせ日こま  
 ちつゆりてもあるしよ必兼履を足を作り家  
 の内乃若乃とくしと料とらへあぬりあ違ひこれ  
 せころりおよしく味又の青やうの物とら違ひこ  
 著ともたしくほつとぬりてまふ乃子よあこ屋  
 しと後よの人も多く志りて初物とれ移いあ  
 助ろくふしこおよあうけきく包と係あここれ  
 いまふよまのりあぬりあぬりいんころりこけ

て親のもたらふ持由さげり親み忠事奉もおいし  
人の子もく殊更よいとぞとけきハ早助もい  
りて孝とさき〜三日〜い〜い必か〜り〜何れ  
こ家つら〜ぬ早助の忠孝と感して聲と  
書みふらもせとやるといひある者多く志事つ  
た〜い〜い人よと〜い〜いものかを〜い〜い  
ふ〜い〜い〜いけ〜い〜い家のうらた多くれい  
早助一人の力とも〜い〜い解も〜い〜い  
〜い〜い大忠つら子男二人女一人あり〜い〜い  
〜い〜い田舎といへるもの〜い〜い〜い〜い

らと〜い〜い二人乃子も書と〜い〜い〜い〜い  
淑武藝不と〜い〜い〜い〜い〜い〜い  
〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い  
らんといら〜い〜い〜い〜い〜い〜い  
者に雇ま由けり先くれ人のありも〜い〜い  
紙たのこ〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い  
を感〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い  
教ふるは〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い  
不節句益被岸ふとれ休日〜い〜い〜い〜い  
ふ〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い

りてしよとしてやとて進それ賃錢をりくかの筆  
紙乃料よのあくと又ハ書籍りくける人のもとよ  
んともりの乃謝禮をりく延享三年領主より  
褒賞りくし米をりくせしとらん

孝行者吉玄坊

貞慈者つらん

貞慈者つらん

孝行者善玄坊

孝行者はよ

忠孝者ハ助

若松の城下融通寺町よ吉玄坊といふ者あり三十  
年ころにの姉乃夫妻玄坊の善子とありつるの姉  
とも善母といふて孝父母の孝善とつらん事  
りく善玄坊ハ白川乃城下に店を出しカ此籍を  
高ひ物とせしに七年このころ中風の病をりけ  
旅の往來もたつりくつる善子のとあると母と世  
小あつて人外に出る時ハ筆といふものよ乃せむ記  
母りるとも倒しよとてんを慰めりつとせむ  
てうせぬ母の歎といふ事りくその作善のこ  
めよ法とく道といふとらんといハ夫婦れうらよとく

のりくまこひ又は國ふさこそとて二十三日  
 の觀世音ともめくりとてもとりに母のふま  
 乃安よとりみとり下船の八助とも具して十日  
 あかりとてとるいありとてその僧尼の来る事に  
 是の後の世乃相説させくとて又の葉子物うと  
 せしつとてまつくその後後と怒めさく又赤井町  
 西光寺の門をうよ方志をうとて考くともものく  
 へかごとと憐れつ子よ物とてせく喜ひ奉り乃言に  
 ハ美味増すといふ新の類ともかちあてへ出入者乃  
 を考究るるともそとてしつとてけつとてそ

養老金卷二の妻のかんは言まづの姉より若く時よ  
 里養父母よ孝をつくし其の養老諸朝ありとて  
 ひて旅よのこあせとてつゝ眞意とてちり子業  
 小菟漆あつとてつゝ細とりよものく子傳ひをり  
 てせとつとてまはり其申風の症とるりて七年病  
 の原よありとてまの菟のものとて及の涼くとも陰  
 秋を月ありとて下に床とつとてをうらまるとも  
 して酒とてつゝ奇りとめ膳とてのへをさつと  
 こりれ人を招と茶飲とるつゝおとして其の  
 んを養ふといふ養子乃言まづハ菜酢をつつり孫

の善き徳もこれ柄糸少紀又ハ鞘ぬるりといふ  
てよれといひとせしに申すも家子つこいなる業子  
怠りそといふ免つていふ事もよとせしうせ  
されハ家産も又全りこ

善き徳の妻のつこもあつて貞義なるものよとま  
の善き徳は年このつこ申風とていふ事ハ先づもよ  
あつたらぬとよく善い枝け痛める事者こつこ  
姑のまうらつこつこ物なるとおよつこつこらに免れ  
免二使の用事やく事なり 免よとまハ姑とま  
とたたよとつこつ免との事ハその申すよとつこつこ

の用とつこつて徳もよとつら目もあはせとつこつ中  
よも家の目とつこつらあよ掃除ハ多く此高ん乃  
入来らよもあつこつよあつらハ姑のあつこつ  
和花深とよ業とせしよ姑のあつこつと利を  
多くとる事なけしよつこつらつこつこのあつこつ  
物も多りこ

善き徳の子善き徳も年以酢と作りあつこつハカ  
柄少紀鞘ぬりて世浅とつこつ免ハよとつこつる業  
の申すも病あつ親者こつ祖母よとつこつへ船夕  
其のよとつこつ事も必親のよとつこつ





己二つ月の福もくしてゆき姑の力を此と分よと  
 事と嘆きさつて人をも抱懐し多の姑ハ婉をい  
 つり婉ハ姑を教ひつ子に舅を介抱して姑よの  
 つらんとつひそれハ多病るら力をつらんとつひ  
 養生しといふよを力と徒よせんこそ家のこ  
 免先祖のこめらうかろんそれとさくさめ  
 即と程約夕よさうをつくせしとるんは家より仕  
 ふ下給ハ助といふものありもとて海沿船渡  
 町村の氏彦六の身なりし二十九歳のあひこ  
 めやうよ仕へくといふ家の老老かとさくたのも

いものよこの家業の業部を養ふといふとさく  
 日坂下を走りより家よかつともいふ事な  
 く養ふるはく細工をさくといふかの徳理ハ  
 大又ともやうふ事あくとも出入るいと事よ  
 養のよと諾ひ壁れ崩れつらとぬりおらぬを  
 のと父兄をいふとさく奉しに給る所の給  
 全ハ親里に贈り親るるりといふ兄のもとに  
 一とこの事ハ廉服さくといふとあつりとい  
 ともく吉ま湯か一家のうら孝侍乃者多り  
 けつと町乃夜人も養護とて領主といふ

けしむる言まはすかき母と言まはす夫婦と云ふ  
言まはす言まはす言まはす言まはす言まはす  
下男八助も言まはす言まはす言まはす言まはす言まはす

孝行者治左衛門

若松の城下の町に治左衛門といふ者あり公法を  
重んじ慶事をよらひいふく上の徳をまうと  
下を養へさうし高ひ度くして人殺多く  
つゝ復のもれおとせと誓つる事いさかあく香  
儉約と事とらけし家跡もいさかあくと  
見ける兄弟七人の母よしの兄は依治左衛門と

りいへ賢い目町に別家せり次の兄は九助と云く  
徳芳町よとありけ二人は治左衛門の母の兄よ  
して母うせりけり後の母よ身二人妹あり  
ありさうつたの事久左衛門と云おつたさ  
みの町よ家屋をたのへて妻をめとらして見  
酒つらせ又ハ細物をさの類をあらさう  
むとれとまうと事つらさ復る事と云今此母其  
家子程く朝夕の世話をもせありとらふと実  
の父母よいもくさく事と云思ひとら  
けまらせり事実の母にひらきせありとら



たりまゝのむいし嫁せしめしり母のむいしり  
 つしつとふ末の身ひらり程家よあらむと  
 もふれにられしもふしつらむと母のむいしり  
 くのむめえくやうそつらつとつらつとつらつと  
 ひもふのむいしりも定めしん屋しつとつと胸を  
 りいめめくそつらつとつらつとつらつとつらつと  
 けり末の者よもこの治左衛門と今れ父とむいしね  
 うしつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと  
 治左衛門のむいしりつとつとつとつとつとつとつと  
 程るらむとつとつとつとつとつとつとつとつとつと

てうしつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと  
 義の出入下つとつとつとつとつとつとつとつとつと  
 ことしつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと  
 り治左衛門のむいしりつとつとつとつとつとつとつと  
 いとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと  
 てつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと  
 後へ示しつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと  
 つとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと  
 花秋の月よも町乃らむ人組たつとつとつとつと  
 つかしつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと

業に世もくろ業の帳らるる骨をうへてあり  
 へそといへるま卒の軍にやめ一家のうらり  
 彦市といふ者高ひ乃利を失ひし事あり  
 して幾十の費又をゆかむといふも其利幾  
 ぞといふれいさうもおとせよといふや  
 にこれをつくのいひむけかよもや家の賃幾  
 を買ふるよあされし期をさるもあまといふも  
 んにうけとてく憐まつけぬ世をまりし父  
 母の靈前に朝夕の配膳忘りるく時く小形  
 たるる味のお求て飯へ價乃高下にあらばに

つふとにろれ男女あまのこたつるどく愛憐く  
 病あまのいよとやりの醫藥を用ゑ其あまの事  
 あまの必帳やりてあまのいよとむせられた酒と  
 好くの日疎るころ事ありしと母の疎く  
 かのまらり福よといふるにこころ事くまに  
 本らよあまの事ありし母のいよとしたのこころ  
 さうもせん殺多の人うらまらあまのおこむら  
 骨もさうなるらぬをあまのあまのいよと  
 こせらにさう免け事いよとらりしてそ限を定  
 て酒をものさうりといふ事なまにけ事なま









つげ母の賤るをそそ志りて死す。精進乃外  
よふいえは急肉よまらひ。あましくいへり。試み  
は母の食といふくけり。延享二年領主よ  
といふえけり。業とあてりて。養ひせり。

孝行者善太忠

善太忠。河沼郡勝常村の氏よりく。もむらや  
く。八名あり。もむら。父は右飛左忠。とく。お記  
のめく。あま。けり。善太忠。十二歳より。若松  
の城下大町善行院といへる寺へ。移して。つと。り  
お。り。業。よ。ま。ひ。し。母。の。い。り。り。あり。と。い。ふ。

て。日。こ。ら。よ。ま。る。は。り。あり。に。ね。と。い。ひ。て  
二里。や。ま。道。と。う。こ。に。家。よ。り。り。お。ら。も  
に。母。と。い。り。り。樂。白。湯。か。と。を。先。給。仕。て。曉  
の。宿。善。行。院。に。く。ら。業。三。十。日。あ。ま。り。一。お。も。忘  
る。業。あ。一。推。さ。者。の。い。こ。い。と。め。つ。ら。り  
お。ら。ん。乃。通。し。と。や。母。乃。病。い。え。ぬ。人。と。る。り。し  
も。程。り。れ。院。に。つ。と。り。て。懇。懇。な。り。し。こ。い。あ  
ら。く。れ。傍。は。い。ま。し。て。會。津。の。家。士。の。若。黨。と  
な。せ。り。その。給。金。と。も。こ。ら。く。く。父。母。に。強。り  
其。身。の。危。し。の。程。業。履。を。こ。つ。く。と。し。衣。服。乃

料よあへく日と送りくばらふよといふ戸へ登  
 りて同敷土にまゝしむくか女儀の病あり  
 てらせよのた書おきしらすくあり母日あり  
 の順とらひてさくくせりり老父よカとそく母  
 の墓に集りてつ花をたむを立く時好先  
 る物とく酒をも飲へるの道は戸ありく  
 山川乃遠とくを隔くまゝに今のまゝとくもか  
 抱せさる名孝の罪おとせらるものよりよことく細  
 くとくひらふのされとこれもおとせとく助け系  
 らせんのおとせらるゝとくは戸乃縁のく

といふものもおぼはすこのこれる父の祥にか又兼  
 新やうの物あり事くは復はあつとくは  
 日教もさるおぼはすものもあつとくは家子  
 つとえとくといふとせあよりの人をせよ  
 家よのくぬ其後父志氣をせらる左の股も  
 れつとく起外もさるものもあつとくは食も  
 乃くやとくもさるを杖もあつとくは復ありとく乃  
 腫もおぼはすく痛とくやめらるも程膿水流  
 おんともあつとくはさるものもあつとくは書  
 ひもあつとくはさるものもあつとくは書



これ今く書き置けり徳のりたる所と入るもいふや  
せうろ老乃波きまらふんためいあひまをたて父いきて  
いふれと今あはれなりいふもいふもいふもいふもいふも  
出してと書き置けり徳のりたる所と入るもいふや

奇特者利之清

奇特者山之那

奇特者守之清

奇特者清之内

奇特者彦左衛門

大沼郡上米塚村乃民に言九名余持し利之清

言十名余つてもつりくふと書き置けり徳のりたる所と入るもいふや  
二斗あり作り作り清内言十名あり進退  
とる彦左衛門あはれなりいふもいふもいふもいふも  
らぬを農事軍のつらあふあつちあつちあつちあつち  
その名いふりくく儉をもちり節しと書き置けり徳のりたる所と入るもいふや  
ら財用もいふりくくつらあつちあつちあつちあつち  
あつち一村のうらわぬし窮若れ老いあつちあつち  
あつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつち  
あつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつち  
あつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつち



摩ふといふおらもいふふらふといふは母ハ七十の業に  
 て果くふり候をせめらるる事とあらりていりも  
 入梅乃迄あり去用さるるものゆへに枕のいけよと  
 らぬ時もし日あひい成る日なかりし日忘るる  
 るとて薬乃事なすものゆへに支ぬとも  
 い中いふらふはの事いふらふとらそ乃に  
 といふらふらふの事いふらふの職業と  
 けいふらふらふの事いふらふの事いふらふ  
 じらに價もいふらふらぬわらぬらふらふ  
 ころな又の物夕の具も賀の事いふらふ

せ東免非仏といふの事いふらふらふらふ  
 といふらふにむにむらう候病の甘といふ物  
 煙草のいふらふらふの事いふらふらふ  
 といふらふ物夕の事いふらふの事いふらふ  
 物あむらふらふらふの事いふらふらふ  
 の事いふらふの事いふらふの事いふらふ  
 うせ又の說法乃場にいふらふの親の事いふ  
 といふらふの事いふらふの事いふらふ  
 母いふらふの事いふらふの事いふらふ  
 らるらふの事いふらふの事いふらふ

ちてはさういふ夜等とはをめひぬてとつらう深う  
 しめいせせしつれ場よおひじりしめんとい  
 る小母の痛つらうおらうて果と居とらせ茶に  
 火乃炎ふさあひあるこしをるた相と焼  
 ひて歯なる小敷とつらう恒残り此地に體業  
 のつれ柱つきく母の痛るけり妻もせられ  
 つらう業れにしてつらう此乃ふよりい二使の色  
 いよも海つらうつらう此乃ふよりい此乃ふよりい  
 りふ暖め寝させ夜とつらう寝つらう業れを  
 もつらういふつらうぬよとせあかに此乃ふよりい

く短ひつらう此乃ふよりい業のつらう  
 つらうおけつらうつらう此乃ふよりい使るつらう  
 妻とつらうつらう此乃ふよりい者とつらうあひつ  
 其職をせらつらうつらう痛のつらうつらう妻と  
 の働もつらう此乃ふよりい及とつらう夕や  
 つらうあつらうつらう醫師水盤法言とつらうものよ  
 つらうつらう薬をも服とつらうつらうつらうつらう  
 つらうつらうつらうつらうつらうつらうつらうつらう  
 母とつらうつらう此乃ふよりい日本とつらうつらうつらう  
 ハ唯母のおつらうつらう友よとつらうつらうつらうつらう

ことわりの療治うくむかひもあらざるに妻  
 も當神佛といひのり 實相寺に藥師佛の繪  
 ありとさげと糸をくむに女はあはれむと  
 かくさうりひくあやしくはむしむおまじひ  
 乃寺にいつりむいさうらに歎き祈りしかその  
 よいこの通へけりも女はの福急りともくぬき  
 さい暑さいゆもたつぬのさうらる色いさうも  
 いさふさあきいさうらさうらあはれ母にり  
 のをそ時の夜をわくくに免やさうく志るを養  
 いさうあさうれ者うりむくさうらうくさうら

ありて支ぬのもの領主より糸をあくへい  
 定享年五十九のありとい

孝行者林を慕ふ

若松の城下の町に林を慕ふとくこころ七十と  
 なるに年九十一にさきなる母よつへと孝  
 初なるのこふともくは初なるの年初を慕ふと  
 けふ若松を慕ふ子とくは娘をもむくへて家の業を  
 ゆつりそれすの醫師岩田知良のもらふあり  
 て其術を學へり十一年前ふ町にりの家  
 し女をも運へらりなるといさうりれ病を療し







又田畑ありし刈納る物ありし一奉お内お人  
 ると申すに身どかりてつらなる事といあり  
 ぬその頃新右衛門の娘のやうやく九歳にむしを  
 新之助といふものもしてとてとてとてとてとて  
 られを具してその中吉村乃清と清の伴へ  
 けるこれにつとむる事又十九年たりとの娘  
 る者種さほと抱えりて添養とて鞠のい  
 とよくはまひまゝと十三との子奉り吉村お雲  
 婿りもと新右衛門なり其月ハ奉りて子乃代  
 をつとれいつとみ十之歳よしてはるよ身をうけ

戻しつとりし程にとてめり九之十年代の  
 家につとて其うち十五年前に兄の新右衛  
 門より新之助の代を僕ひ徳侯へ家  
 譲りせんといへりし見りもありて  
 も多しといふにいとつとてつとてつとてつとて  
 業やとてつとてつとてつとてつとてつとてつとて  
 用と勤先とつとつとつとつとつとつとつとつとつと  
 兄の家の新とつとつとつとつとつとつとつとつとつと  
 とは業ありとつとつとつとつとつとつとつとつとつと  
 のもつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと

ころころと必見よ送り主人の家乃勤くしもよめ  
 やるるれし時によまじける夜の糸に糸一斗を定  
 てあていへと代家ありしと賄へよまじり丸巻ひま  
 し姫よあめらせん便とほその後の又必見のもと  
 のよまじりあていへとやめあていへりてのち  
 新志書中風よまじりあていへりてのち  
 程うら外てありしと其痛くさるる事と  
 しまよの事しとあていへり先見よめと物とをまじり  
 農事よまじりしと公絶まじりそとよまじりし  
 ことらに見の痛とたさくさよまじりしと物

ねとけいのりんと師味む入薬こひよ初うひ  
 二便のとりよまじりあていへりあていへり  
 凍くくまにあていへりよ麻をまじりしとまじり  
 先ままの折よまじりしと姓業よまじりめ秋を  
 さらものよまじりたるよまじりしよ手あていへり  
 賄へよまじりしと痛よまじりしと口よ叶りん物を  
 ころのよまじりし又孫しとまじりあていへりせ  
 らつるよ七兼あよ見はりせぬ物と志書のを世  
 ふまじり其才ハ程妻よまじりしと耕作の時と  
 養ひとよまじりしと公よまじりしと志める程よ

と云ふもやうくその初ひよりうひ田乃物と云う  
そのよせは公役と申すやうく勤めし  
是京田年領と申すやうく兼てと云ふと云ふ

孝義録卷之三

一と云ふ  
二と云ふ  
三と云ふ  
四と云ふ  
五と云ふ  
六と云ふ  
七と云ふ  
八と云ふ  
九と云ふ  
十と云ふ  
十一と云ふ  
十二と云ふ  
十三と云ふ  
十四と云ふ  
十五と云ふ  
十六と云ふ  
十七と云ふ  
十八と云ふ  
十九と云ふ  
二十と云ふ

